◆茅ヶ崎同盟教会たより　２０２３年8月

主はわたしに言われた。「この民のために幸いを祈ってはならない。」　エレミヤ１４：１１

先日「歌仲間」（コーラス）で「島唄」を練習して歌っていた時、不思議と涙が出そうになりました。今まで何度も聴いたことのある歌でしたが。この歌の意味を調べて初めて知りました。この曲を作った宮沢和史さんがひめゆり学徒隊だったおばあさんから戦争体験を聞き、沖縄戦での不条理な死と平和を願い作ったと言うことがわかりました。。

１番「でいごの花が咲き、風を呼び嵐が吹いてきた。」
１９４５年春、でいごの花が咲くと米軍の沖縄攻撃が開始された。**「でいごが咲き乱れ、風を呼び、嵐がきた、」**でいごの花が咲き誇る初夏になっても米軍の沖縄攻撃は続いている。**「繰り返す哀しみは島わたる波のよう」**多くの民間人が繰り返し犠牲となり人々の哀しみは島中に広がっていった。**「ウージの森であなたと会い、ウージの下で千代にさよなら」**サトウキビ畑であなたと会い、サトウキビ畑の下の洞窟で永遠の別れとなった」**「島唄よ風に乗り　島とともに海を渡れ、島唄よ風に乗り届けておくれ私の涙」**（あなたは島唄の歌詞の本当に意味をしっていますか。より）

この歌詞は現在のウクライナの人々と重なります。人間は変わらず、繰り返し戦さを続け、神のかたちに作られた人間の命を犠牲にしています。さらに広島、長崎の町を一瞬にして焦土化し何十万のいのちを奪ったあの核の使用さえちらつかせています。かつて神はイスラエルの罪の為にとりなすエレミヤに対し、上記のようにその祈りをお認めになりませんでした。世界各地で起こる人間の罪による止まない戦争は主を悲しませていることでしょう。それゆえ私たちは世界が、為政者が悔い改め、平和への道を歩むように主の赦しと憐れみを求め、主の真実を信じて、とりなし祈り続けなくてはと思います。

伝道師　川島正子